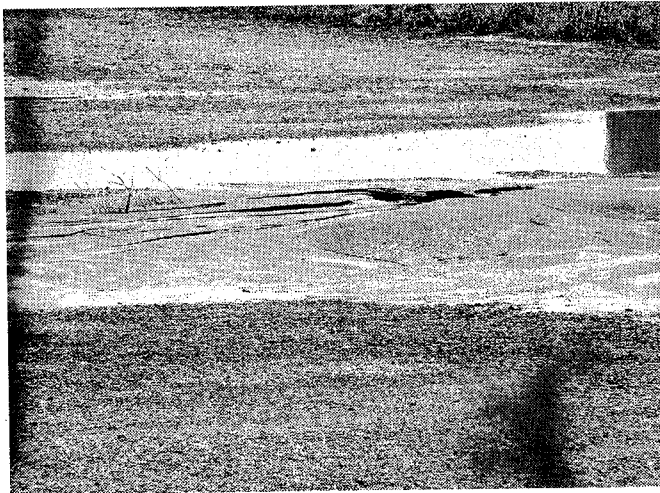


築地移転予定地が液状化

東日本大震災(11日)で、築地市場(東京都中央区)移転予定地の東京ガス工場跡地(江東区豊洲)でも液状化現象が生じたことが分かりました。日本共産党都議団が12日に行った現地調査で確認し、都中央卸売市場も15日に液状化の発生を公表しました。

都議団が敷地の外から確認したところ、都が青果卸・仲卸売り場として予定している5街区の中央部や防潮護岸で、晴天が続いたにもかかわらず水がたま



液状化現象が生じた疑いのある箇所(中央)＝東京都江東区の東京ガス豊洲工場跡地(日本共産党都議団撮影)

って砂が噴き出た形跡のある箇所がありました。都は側方流動対策として防潮護岸工事を

実施していました。都は5街区と水産仲卸売場に予定する6街区で噴砂を確認し、噴砂の飛散を防止する応急措置に着手していま

す。
党都議団は「今回の地震で、豊洲予定地全体でどのような現象が起きたのか、汚染物質は表面に出てきたのかなどを詳細に調査し、

「都民に公表すべきだ」としています。

日本環境学会の坂巻幸雄・土壌汚染問題ワーキンググループ長の話 私も13日に現場を見てきました。泥の真ん中が厚くふくらみ、周縁部に行くにしたがって薄くなっていました。これは液状化による噴砂です。

通常、液状化が問題になるのは建物や道路、橋、護岸ですが、豊洲では汚染物質が1帯にまき散らされる危険もあります。福島第1原発の事故では、根拠のない楽観論が破綻しました。食の安全が求められる市場で同じ誤りを繰り返してはなりません。都は秘密主義をやめ、現場を都民と研究者に公開して、真剣な調査研究と討議をすべきです。